

令和3年度 財務概要

資金収支計算書

資金収支計算書は、教育・研究その他諸活動に対応するすべての現金・預金の収支のてん末を明らかにしたものです。

収入の部において学生生徒等納付金収入は占める割合が最も大きい科目です。四日市看護医療大学においては新学科が学年進行中であることから学生数が増加するものの四日市大学や高校以下の入学者数が減少したことによって前年度対比23百万円減の2,841百万円となりました。うち大学部門は1,772百万円、高校以下部門は1,069百万円です。手数料収入は、大半が入学検定料で、68百万円のうち58百万円を占めます。ほかには大学共通テスト実施手数料収入6百万円などがあります。補助金収入は、学生生徒等納付金収入に次いで多い収入科目です。学生生徒等数の減少に伴い前年度対比32百万円減の1,032百万円となりました。内訳は、大学部門が227百万円、高校以下部門が806百万円です。付随事業・収益事業収入は正課以外の活動に関する収入で、補助活動収入、受託事業収入、収益事業収入の3つに分かれます。補助活動である幼稚園2歳児こどもクラスを廃止したことにより2百万円減少しています。雑収入は174百万円と多額を計上していますが、そのうち147百万円は退職金財団等からの交付金収入で退職金やみなし退職者分の引当資産への繰入に対応するものです。そのほかには教室や体育館などの施設の外部への貸し出し料や高校以下のスクールバス利用料収入など21百万円も含まれます。借入金収入は、大学運営資金としての短期借入金を例年よりも200百万円減らして300百万円とし、新たに、本部棟建て替え資金として短期借入金100百万円と借入期間4年の長期借入金300百万円を調達しました。

以上の科目に前受金収入456百万円、その他収入363百万円、資金収入調整勘定△684百万円、前年度繰越支払資金1,819百万円を加算した収入の部の合計は6,824百万円です。

支出の部において占める割合が最も大きい科目は人件費支出です。四日市看護医療大学の教職員数増や高校以下の退職金増等により前年度対比16百万円増の2,831百万円となりました。うち大学部門は1,275百万円、高校以下部門は1,556百万円です。教育研究経費支出は、教育・研究活動に係るすべて経費が計上されます。主な支出科目は、修繕費143百万円、奨学費184百万円、光熱水費92百万円、消耗品費52百万円などで合計748百万円です。今年度は大学の修学支援奨学費や光熱水費が増加する一方で、四日市大学のスポーツ奨学生を削減するなど奨学費を大幅に減額したことで前年度比6百万円の減少となりました。管理経費支出は、法人運営や庶務・会計など管理部門業務、学生・生徒募集、広報活動に係る経費で、主な支出科目は修繕費142百万円、宣伝費57百万円、印刷費34百万円などで合計382百万円です。今年度は本部棟解体費用が計上されていますので前年度比116百万円増加しています。借入金等返済支出は、借入期間1年以内の短期借入金の返済で借入金額を200百万円減額しましたので今年度は300百万円です。施設関係支出は四日市大学のテニスコート改修工事、四日市看護医療大学のエアコン更新、高校以下の校務員室設置などで合計34百万円、設備関係支出は各校で購入した教育研究用機器備品127百万円、管理用機器備品25百万

円、図書10百万円などで合計162百万円です。資産運用支出は退職給与引当資産への繰入額99百万円と減価償却引当資産への繰入額37百万円で合計136百万円です。退職給与引当資産は三重県私学振興会からのみなし退職交付金を一時的に繰入れて管理するもので、減価償却引当資産はコンピュータ機器更新などに備えて一定額を繰入れて管理するものです。

以上の科目に前期末未払金支払や預り金支払などのその他支出143百万円、資金支出調整勘定△113百万円、翌年度繰越支払資金2,198百万円を加算した支出の部の合計は6,824百万円です。

事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、教育活動事業・教育活動外事業・特別の3つの事業ごとに収支の均衡状態を明らかにして学校法人の財務状況を把握するものです。

教育活動収支においては、収入合計が68百万円減少したことに加えて、今年度は本部棟解体工事費用が高んだため、収支差額は前年度より219百万円減少し△230百万円となりました。

また、教育活動外収支は収支差額がほぼ均衡しており、特別収支の収支差額は資産処分差額の増加により△11百万円となりました。

以上3つの収支を合算した基本金組入前の当年度収支差額は、前年度より233百万円減の△240百万円です。今年度は本部棟解体の影響で基本金組入れが少額に抑えられていますので、基本金組入後の当年度収支差額もほぼ同額の△241百万円となりました。

貸借対照表

貸借対照表は、資産とその資金調達源である負債や資本を対照表で表すことによって、当該年度末時点の財政の状態を明らかにするものです。

資産の部においては、減価償却等によって固定資産が前年度比299百万円減少するものの、4億円の借入金によって流動資産が389百万円増加しており、資産の部合計は前年度比90百万円増の13,073百万円となりました。

負債の部は新たな借入金によって前年度比331百万円増の1,800百万円となりました。純資産の部は基本金組入額が若干増の19,129百万円となる一方で翌年度繰越収支差額が241百万円減の△7,856百万円となり、以上の合計で負債及び純資産の部の合計は前年度比90百万円増の13,073百万円となりました。